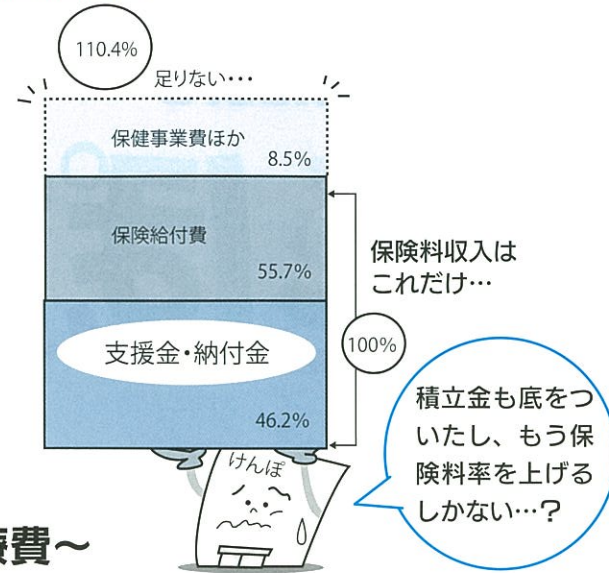


健保財政はもはや限界です

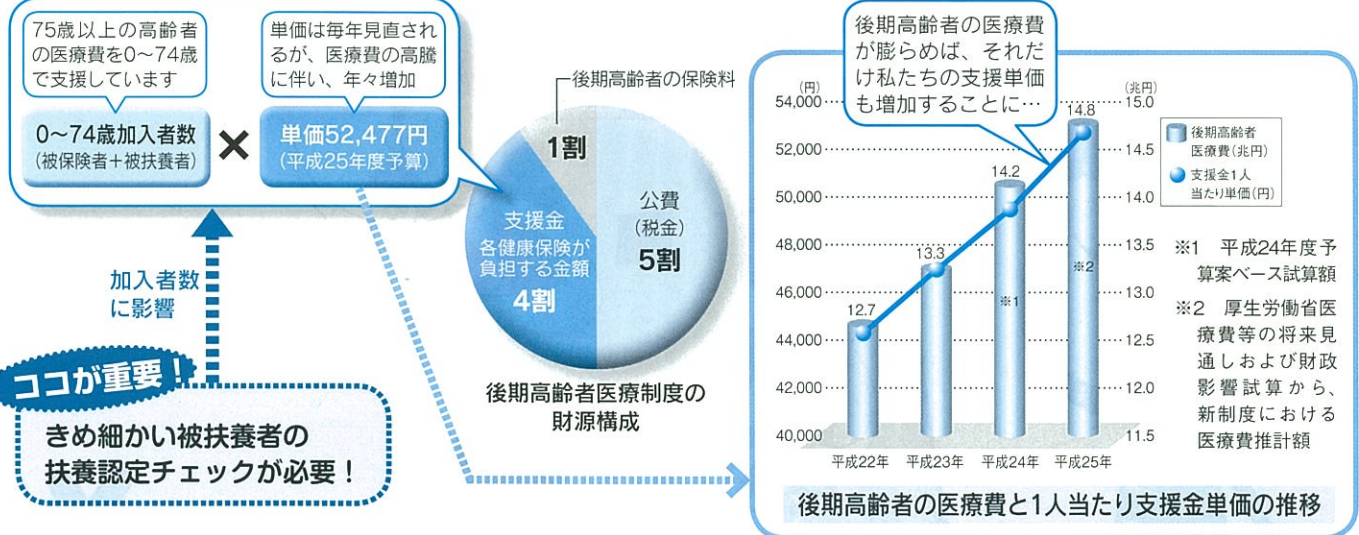
～無関係ではありません、高齢者の医療費～

年々増加する高齢者医療への負担は保険料収入の約5割にも及び、平成25年度の健保組合の財政は非常に厳しい状況となっています。

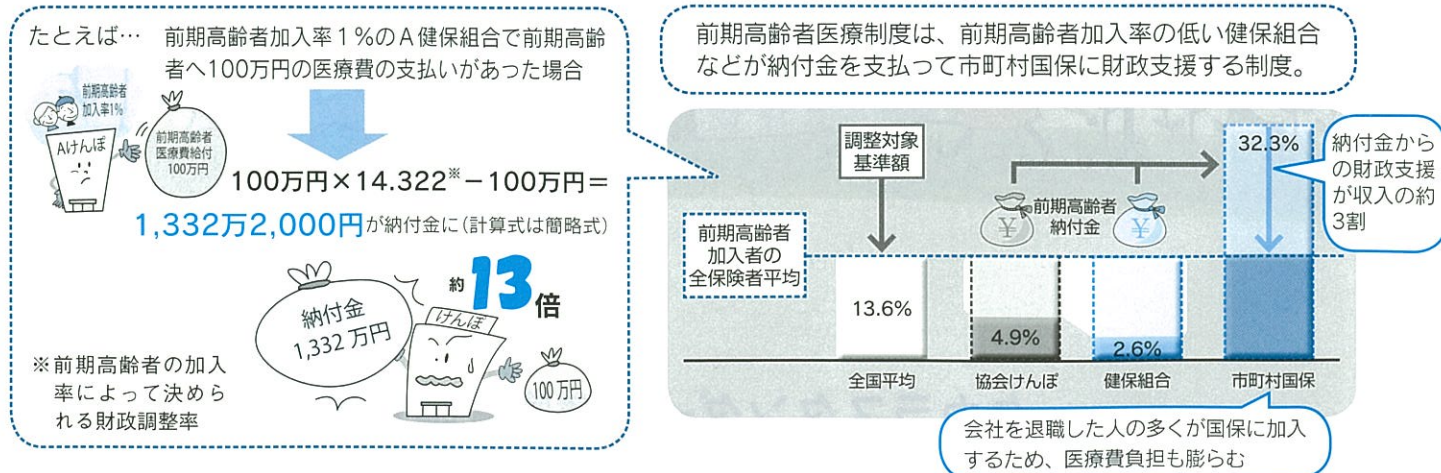


高齢者医療への負担ってどうなっているの?

■後期高齢者(75歳以上)の医療費は0~74歳の人で財政支援



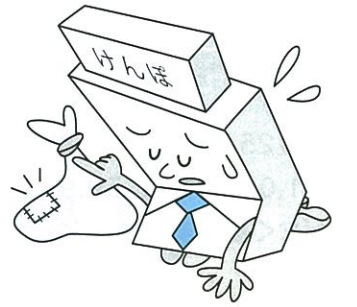
■前期高齢者が多い市町村国保を財政支援



■健保組合の財産を狙い撃ち

70歳以上の高齢者の医療費を無料化とする老人医療費支給制度が昭和48年にスタートし、その後、急速な高齢化と医療の高度先進化により、高齢者の医療費が増加の一途をたどり、公費(税金)のみでまかなうには財源不足となりました。そこで、目を付けられたのが健保組合の持つ潤沢な財産でした。

しかしながら、長年にわたっての負担により、その財産も底をつき、今や保険料を引き上げるにも、赤字が継続してその余力もなくなっています。解散に追い込まれた組合も多く、平成24年4月1日現在の組合数は1,435組合で、現行の高齢者医療制度がスタートした平成20年度に比べ67組合減少しています。



財政危機をのりこえるために、どうしたらいいの?

■加入者の皆さんにできること...まずは医療費の節減から!

健保のピンチを立て直すには、加入者の皆さんの自助努力が必要です。第一に日々の健康管理に気をつけること。病気になる健康な体を維持することが大切です。

もし、体調の異常に気づいたら早めに受診し、症状を悪化させないことで、医療費の節減につながります。医療費の節減に努めて、過重な負担を少しでも軽くしましょう。



使用率増加! 医療費節減効果大! ジェネリック医薬品

医薬品には先発医薬品とジェネリック医薬品の2種類があります。ジェネリック医薬品は、先発医薬品と有効成分や効能は同等でも、薬代が2~8割も安くすみます。

比べてみよう! お薬の値段



とくに節減効果の高いジェネリックはコレ!

- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などの生活習慣病
- 関節リウマチ、骨粗鬆症、前立腺肥大症、不整脈などの慢性病
- ぜんそくなどのアレルギー病



まだある!

医療費節減テクニック

- 一番大切なことは、健康であること。定期的な健診受診を
- 何でも相談できる「かかりつけ医」をつくろう
- 受診はできる限り時間内に
- 病院をあちこちお試しの「はしご受診」は負担大!
- 整骨院・接骨院のかかり方にはご注意を

